

壱岐市 水道  
簡易水道 } 事業経営戦略

団体名：壱岐市

事業名：壱岐市水道事業

策定期日：平成 29 年 2 月

計画期間：平成 29 年度 ~ 平成 38 年度

### 1. 事業概要

#### (1) 事業の現況

##### ① 給水

供用開始年月日	昭和42年 4月1日	計画給水人口	37,870 人
法適(全部・財務) ・非適の区分	法適(全部)	現在給水人口	27,592 人
		有収水量密度	18.87 千m³/ha

##### ② 施設

水源	<input checked="" type="checkbox"/> 表流水, <input checked="" type="checkbox"/> ダム, <input type="checkbox"/> 伏流水, <input checked="" type="checkbox"/> 地下水, <input type="checkbox"/> 受水, <input type="checkbox"/> その他 (複数選択可)		
施設数	浄水場設置数	6	管路延長 595.26 千m
	配水池設置数	67	
施設能力	17,829 m³/日	施設利用率	89.8 %

##### ③ 料金

料金体系の概要・考え方	平成16年3月1日に旧4町(郷ノ浦、勝本、芦辺、石田)が合併する際に料金検討を行い料金を統一しています。一般家庭は2ヶ月に一度検針を行い、基本料金630円(5m³まで) 超過料金236円(1m³につき 端数は切り捨て)を賦課しています。尚、墓地やプール等の共用栓は検針区分も異なるため別に定めています。		
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	平成 16 年 3 月 1 日		

##### ④ 組織

市長部局一建設部一上下水道課(15人)
上下水道課一施設管理班(7人)
上下水道課一業務班(4人)

#### (2) これまでの主な経営健全化の取組

平成22年に壱岐市水道ビジョンを策定し、健全経営化に取り組んでいます。

#### (3) 経営比較分析表を活用した現状分析

##### (1) 別紙の通り(経営比較分析表を添付)

## 経営比較分析表

長崎県 島崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり支度料金(円)
-	90.32	22.40	4,170

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,991	139.42	200.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,203	1.40	4,430.71

### グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

### 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は平成27年度決算において100%を上回っているため、今後も引き続き料金回収に鋭意努力し経営改善を図っていく。流動比率においては平成24年度より老朽化していた配水池建造の大規模改修工事を行ったため現金の流出が多かった事から比率は減少傾向にある。企業債残高対給水収益比率は、建設改良のために借入していた企業債を給水収益で割り出した値であり、企業債残高の規模を表す数値だが、残高については毎年償還をしていく財源をこれまで同様に確保していく。また、料金回収率は年々上昇はしているが、今後も引き続き回収努力を行っていく。給水原価や施設利用率は漏水調査や人口減少により配水流量の軽減のため減少傾向にある。また、有収率においては、毎年度外注において漏水調査を行い漏水発見箇所は速やかに修理をしているため、今後も引き続き調査を行い老朽箇所の布設替を計画的に行っていく必要がある。有収率が漏水調査の結果により上昇したため今後も有収率の向上が課題となる。

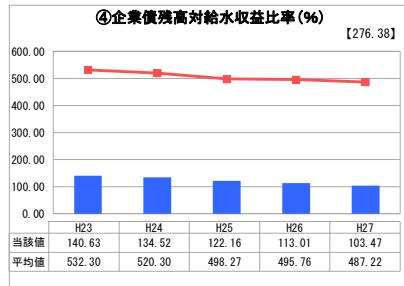
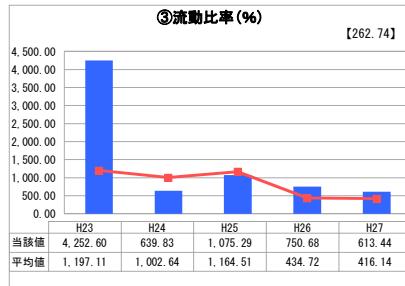
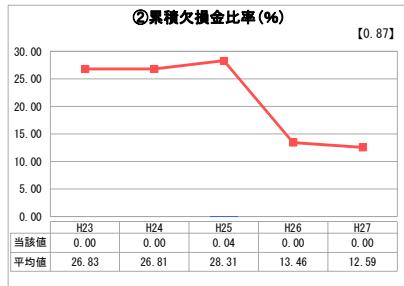
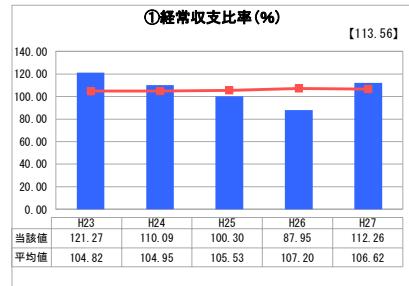
#### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却比率は、平成24年度より老朽化していた配水池建造の関係で年々上昇比率にある。管路経年化及び更新率は管路更新を平成27年度も行っているが今後も漏水調査と併行し、老朽化している配水管路を継続的に更新していく必要がある。

### 全体総括

総括としては、平成29年度簡易水道が上水道に統合されるため、一般会計からの繰り出し金による経常比率の向上はもちろんのこと、料金回収・有収率においても向上させるよう更なる努力を重ね、平成28年度策定の経営戦略に基づき効率的な事業体制を確立していく必要がある。

## 1. 経営の健全性・効率性



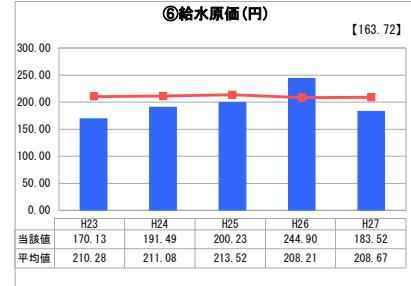
「経常損益」

「累積欠損」

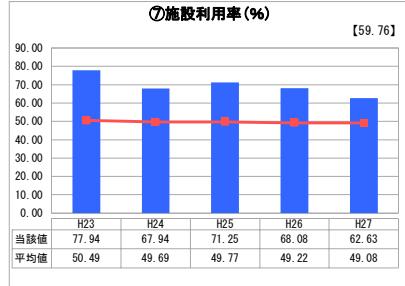
「支払能力」

「債務残高」

⑤料金回収率(%)



⑥給水原価(円)



「料金水準の適切性」

「費用の効率性」

「施設の効率性」

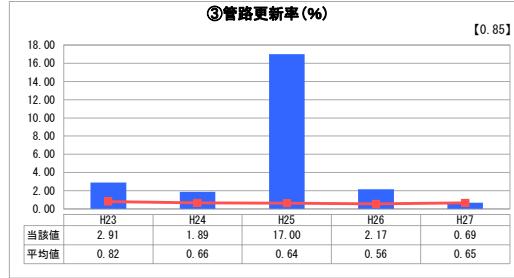
「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)



②管路経年化率(%)



「施設全体の減価償却の状況」

「管路の経年化の状況」

「管路の更新投資の実施状況」

## 2. 将来の事業環境

### (1) 給水人口の予測

給水人口は、行政区域内人口の推移に伴い減少傾向で推移すると予測している。

給水普及率実績値

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
郷ノ浦上水道	94.8	99.0	99.0	98.3	98.8	98.8	98.9	98.7	99.1	100.0	99.7
沼津柳田簡水	85.0	83.3	89.9	92.1	98.4	98.4	97.4	98.8	99.0	99.5	99.1
志原初山簡水	94.9	94.8	95.6	95.4	99.0	99.0	99.0	99.1	99.1	99.7	99.5
勝本浦簡水	99.4	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9
湯本浦簡水	99.5	99.6	99.6	99.1	99.2	99.3	99.0	99.5	99.5	99.5	99.6
芦辺簡水	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
箱崎国分簡水	100.0	99.7	99.7	99.6	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5
八幡諸吉簡水	99.7	99.7	99.7	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.9	100.0	99.6
深江住吉簡水	98.9	99.2	99.3	99.8	99.8	99.0	99.8	99.7	99.7	99.9	99.7
石田簡水	99.3	99.3	99.4	99.4	99.4	99.4	99.5	99.6	99.5	99.6	99.5
香岐市全域	97.1	98.0	98.5	98.5	99.3	99.3	99.3	99.4	99.5	99.7	99.6

行政区域内人口の設定

年度	第2次香岐市総合計画	設定値
平成27年度	27,686	27,686
28	26,814	26,814
29	26,596	26,596
30	26,378	26,378
31	26,160	26,160
32	25,939	25,939
33	25,633	25,633
34	25,327	25,327
35	25,021	25,021
36	24,715	24,715
37	24,406	24,406
38	24,196	24,196

給水区域内人口実績値

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
郷ノ浦上水道	7,655	7,185	6,806	6,993	6,911	6,782	6,730	6,301	6,213	6,703	6,203
沼津柳田簡水	2,110	2,058	2,258	1,979	2,008	1,915	1,918	1,866	1,839	1,883	1,807
志原初山簡水	2,007	1,980	2,009	1,899	1,877	1,857	1,826	2,114	2,105	1,817	2,097
勝本浦簡水	2,562	2,526	2,528	2,487	2,408	2,377	2,244	2,254	2,591	2,265	2,235
湯本浦簡水	3,842	3,798	3,745	3,724	3,682	3,581	3,660	3,525	3,120	3,542	3,465
芦辺簡水	2,635	2,560	2,503	2,377	2,419	2,270	2,361	2,324	2,293	2,350	2,315
箱崎国分簡水	1,612	1,552	1,520	1,497	1,475	1,437	1,438	1,406	1,381	1,398	1,389
八幡諸吉簡水	1,863	1,826	1,811	1,888	1,752	1,807	1,709	1,674	1,612	1,660	1,644
深江住吉簡水	2,365	2,327	2,281	2,250	2,212	2,155	2,147	2,149	2,105	2,181	2,114
石田簡水	4,588	4,567	4,551	4,450	4,395	4,361	4,375	4,330	4,287	4,370	4,323
香岐市全域	31,239	30,379	30,012	29,544	29,139	28,522	28,408	27,943	27,546	28,169	27,592

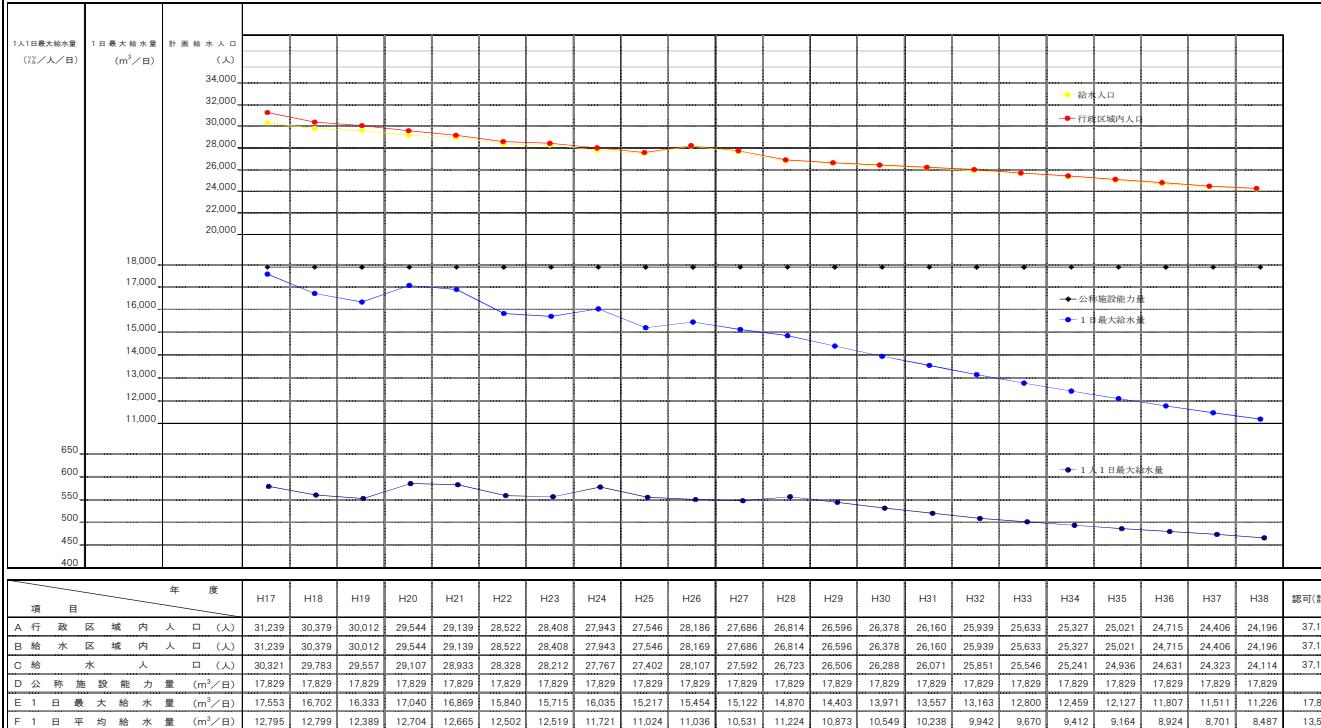
給水区域内人口計画値

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
郷ノ浦上水道	6,390	6,343	6,297	6,260	6,213	6,152	6,088	6,025	5,964	5,902	5,862	6,390	6,343	6,297	6,260	6,213	6,152	6,088	6,025	5,964	5,902	5,862
沼津柳田簡水	1,780	1,766	1,757	1,742	1,728	1,713	1,695	1,682	1,662	1,646	1,636	1,780	1,766	1,757	1,742	1,728	1,713	1,695	1,682	1,662	1,646	1,636
志原初山簡水	1,750	1,739	1,729	1,715	1,705	1,685	1,666	1,651	1,633	1,613	1,600	1,750	1,739	1,729	1,715	1,705	1,685	1,666	1,651	1,633	1,613	1,600
勝本浦簡水	2,208	2,186	2,163	2,144	2,123	2,094	2,065	2,036	2,008	1,979	1,959	2,208	2,186	2,163	2,144	2,123	2,094	2,065	2,036	2,008	1,979	1,959
湯本浦簡水	3,311	3,280	3,246	3,217	3,185	3,140	3,096	3,054	3,011	2,969	2,938	3,311	3,280	3,246	3,217	3,185	3,140	3,096	3,054	3,011	2,969	2,938
芦辺簡水	2,214	2,190	2,168	2,143	2,123	2,094	2,066	2,037	2,007	1,976	1,958	2,214	2,190	2,168	2,143	2,123	2,094	2,066	2,037	2,007	1,976	1,958
箱崎国分簡水	1,321	1,306	1,287	1,268	1,249	1,225	1,201	1,177	1,153	1,130	1,109	1,321	1,306	1,287	1,268	1,249	1,225	1,201	1,177	1,153	1,130	1,109
八幡諸吉簡水	1,573	1,560	1,541	1,522	1,504	1,483	1,459	1,438	1,417	1,394	1,375	1,573	1,560	1,541	1,522	1,504	1,483	1,459	1,438	1,417	1,394	1,375
深江住吉簡水	2,063	2,047	2,033	2,017	2,002	1,980	1,959	1,933	1,910	1,886	1,871	2,063	2,047	2,033	2,017	2,002	1,980	1,959	1,933	1,910	1,886	1,871
石田簡水	4,204	4,178	4,158	4,132	4,108	4,067	4,031	3,988	3,950	3,912	3,887	4,204	4,178	4,158	4,132	4,108	4,067	4,031	3,988	3,950	3,912	3,887
香岐市全域	26,814	26,596	26,378	26,160	25,939	25,633	25,327	25,021	24,715	24,406	24,196	26,814	26,596	26,378	26,160	25,939	25,633	25,327	25,021	24,715	24,406	24,196

### (2) 水需要の予測

給水人口の予測から水需要のグラフは以下の通り、人口減少に伴い給水量も減少傾向になると予測している。

(全體) 香岐市水道



### (3) 料金収入の見通し

料金収入については、過去の実績を元に平均値を将来予測している。(平成29年度からは統合後の収入予測)

人口減少に伴い水道料金の金額も減少傾向になると予測している。

(単位: 千円)

年 代	実 績 値				H. 28	H. 29	H. 30	H. 31	H. 32	H. 33	H. 34	H. 35	H. 36	H. 37	H. 38	備 考
	H. 24	H. 25	H. 26	H. 27												

#### (4) 施設の見通し

事業統合により水道施設を新たに整備する場合は莫大な費用を要することから、現有する水道施設を有効利用することが効果的であるが、漏水に伴う無効水量が増加すれば、施設の能力や電気代等の経常支出に影響を及ぼすことから、年次継続事業として老朽管の更新工事を随時行い、無効水量の低減に努める事が重要です。また、統合による補助事業メニューを模索し有利な補助率を見出し更新計画を立てていきます。

#### (5) 組織の見通し

組織の見通しについては、現在のところ考慮していません。

### 3. 経営の基本方針

平成29年度から公営企業会計に一本化することから、地方公営企業法に基づき、原則水道料金の収入のみで運営していくことになります。また、水道施設の高水準化のために施設整備計画を策定し、今後の水道経営を維持するために事業の資金経営や適切な水道料金などの検討を含め、且つ、施設の減価償却費を考慮した長期的な財政計画を見直していきます。

### 4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

#### ① 収支計画のうち投資についての説明

目標	平成29年度から会計統合するため、有利な補助メニューを見いだし効率的な投資運営を行っていきます。尚、老朽化施設や配水管については漏水を減らし有効率を向上させるため、年次ごとに布設替工事を行っていきます。
----	---

#### ② 収支計画のうち財源についての説明

目標	基準内繰入金の算出について、簡易水道の建設改良に要する繰り出し基準に基づき、適正な基準内繰入金を計上していくとともに、関係部局と連携や調整を図りながら、歳出超過とならないよう財源確保に努めていきます。
----	--

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

#### ① 投資について検討状況等

民間の資金・ノウハウ等の活用 ( PFI ・ DBO の導入等 )	現在、職員により末端残留塩素測定と浄水場等の施設維持管理を毎日行っているが、個別や民間委託へ移行可能であれば委託を検討していきます。
施設・設備の廃止・統合 ( ダウンサイジング )	現在休止中の施設については、電気料等も発生してくることから、今後使用する見込みのない施設は廃止を検討し、効率的な事業経営を図る事とします。
施設・設備の合理化 ( スペックダウン )	施設の合理化の計画はありません。
施設・設備の長寿命化等の投資の標準化	老朽化している施設や配水管の布設替えを計画的に更新し、有効率の向上に努める事で施設の薬品や動力費の軽減になるため、計画的に更新していくこととします。
広域化	水道事業の広域化の計画はありません。
その他の取組	安全で安定した給水を行うため経年劣化施設の更新をしていきます。また、災害対策として、危機管理体制マニュアルの見直しを行う事とします。

#### ② 財源について検討状況等

料金	料金は、平成16年の合併により統一したが、今後の投資計画に合わせた料金設定が今後必要であると考えます。
企業債	企業債償還金については、過去の簡易水道事業改良工事に伴う企業債償還金の増額が、平成29年度会計統合により発生するため、施設の更新事業費を考慮し収支状況を見ながら計画していきます。
繰り入金	基準内繰出金を主要な財源とするため、総務省発行の繰出金基準に則り適正な繰入金を算出し、一般会計との協議を図ります。
資産の有効活用等(*2)による収入増加の取組	遊休資産については、毎年減価償却費が発生し、損益に影響を与えるので資産価値を評価し今後検討を行っていきます。
その他の取組	

③ 投資以外の経費についての検討状況等

委 託 料	民間への委託等が可能であれば順次移行を図るとともに、これまでの枠にとらわれない広範かつ多様な業務委託を検討していきます。
修 繕 費	経年劣化の施設等を把握し計画的な修繕を図る事を検討します。
動 力 費	休止中の施設については動力の契約を解除することで経費の削減に繋がります。
職 員 給 与 費	民間委託等を活用することで、職員の時間外の削減に繋がると思慮します。
そ の 他 の 取 組	

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経 営 戦 略 の 事 後 検 証 、 更 新 等 に 関 す る 事 項	進捗管理や計画の見直しを隨時行い、平成29年度からの会計統合に伴い適正な事業運営をしていく事とします。
--	---

## 投資・財政計画 (收支計画)

(単位:千円, %)

**投資・財政計画**  
**(収支計画)**

(単位:千円)

年 度 区 分		平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算見込)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
資本的収入	1. 企業債												
	うち資本費平準化債												
	2. 他会計出資金			100,355	101,219	98,769	99,312	100,329	100,583	98,668	96,075	94,000	92,859
	3. 他会計補助金	2,294	2,345	2,582	2,639	2,697	2,756	2,817	2,879	2,943	3,008	3,074	2,872
	4. 他会計負担金												
	5. 他会計借入金												
	6. 国(都道府県)補助金												
	7. 固定資産売却代金												
	8. 工事負担金	220	513	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
収入のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額	9. の 他												
	計 (A)	2,514	2,858	103,937	104,858	102,466	103,068	104,146	104,462	102,611	100,083	98,074	96,731
	(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)												
	純計 (A)-(B) (C)	2,514	2,858	103,937	104,858	102,466	103,068	104,146	104,462	102,611	100,083	98,074	96,731
資本的支出	1. 建設改良費	12,963	10,000	30,000	30,000	100,000	100,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
	うち職員給与費												
	2. 企業債償還金	17,217	17,052	212,883	206,425	201,580	203,214	204,408	202,500	196,746	191,582	187,526	184,876
	3. 他会計長期借入返還金												
	4. 他会計への支出金												
	5. の 他												
計 (D)		30,180	27,052	242,883	236,425	301,580	303,214	234,408	232,500	226,746	221,582	217,526	214,876
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C)		27,666	24,194	138,946	131,567	199,114	200,146	130,262	128,038	124,135	121,499	119,452	118,145
補填財源	1. 損益勘定留保資金	26,852	24,194	138,946	131,567	199,114	200,146	130,262	128,038	124,135	121,499	119,452	118,145
	2. 利益剰余金処分額												
	3. 繰越工事資金												
	4. の 他	814											
計 (F)		27,666	24,194	138,946	131,567	199,114	200,146	130,262	128,038	124,135	121,499	119,452	118,145
補填財源不足額 (E)-(F)													
他会計借入金残高 (G)				450,204	362,508	287,248	223,906	167,065	116,677	76,248	49,278	29,920	14,174
企業債残高 (H)		144,507	127,456	2,929,619	2,726,847	2,530,900	2,340,183	2,146,909	1,949,795	1,752,761	1,561,604	1,375,734	1,193,506

## ○他会計繰入金

(単位:千円)

年 度 区 分		平成27年度 (決算)	平成28年度 (決算見込)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
収益的収支分		1,895	1,004	29,487	27,121	24,880	22,788	20,677	18,550	16,435	14,450	12,600	10,836
	うち基準内繰入金	1,895	1,004	29,487	27,121	24,880	22,788	20,677	18,550	16,435	14,450	12,600	10,836
	うち基準外繰入金												
資本的収支分		2,514	2,344	102,937	103,858	101,466	102,068	103,146	103,462	101,611	99,083	97,074	95,731
	うち基準内繰入金	2,514	2,344	102,937	103,858	101,466	102,068	103,146	103,462	101,611	99,083	97,074	95,731
	うち基準外繰入金												
合 計		4,409	3,348	132,424	130,979	126,346	124,856	123,823	122,012	118,046	113,533	109,674	106,567

## 投資・財政計画 (収支計画)

※平成29年4月1日より水道事業会計へ統合するため収支計画は未記載。

(単位:千円, %)

## 投資・財政計画 (収支計画)

※平成29年4月1日より水道事業会計へ統合するため収支計画は未記載。

(単位:千円, %)

○他会計繰入金

(单位:千円)